

8・30津田沼拠点に縦集しよう!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

組織破壊攻撃粉砕! 反動密通裏切り分子糾弾!

動労第三五回全国大会は良心的組合員・活動家の全国的総決起と革マル反動分子の組織的、路線的総破綻をつくり出し、動労大改革運動を大きく前進した。動労千葉のこの間の主張と行動の正義性は、この全国大会の中ではっきりと突き出されている。このような中で反動革マル分子の手法として動労千葉破壊に立ち現われた七名の裏切り者を、われわれは断じて許すことはできない。

七名の裏切り分子とは何か

今日、七名の反動・密通裏切り分子の意味するものは何か。

それは第一に、この間の動労千葉一四〇〇名の苦闘を踏みにじり、反動革マル分子の動労千葉破壊策動に口実を与え、手を貸すものであり、第二に、動労千葉一四〇〇はもちろん、第三五回全国大会で決起した一二地本・七〇名の勇気ある代議員に代表される全国的良心的・戦闘的組合員の闘いに対し背後から銃を向け、ツバを吐きかけ、第三に、この間の反動革マル分子の暴力を全て容認するものとなっていることである。

事実、全国大会で追い詰められた反動分子は、唯一「千葉から七名が参加した」ということのみを成果として大会を乗り切り、当局に哀願して動労千葉破壊のための口実に最大限利用されていることも明白である。

潜入「革マル分子」であることとを居直る島田(津田沼)

次に、われわれは七名の反動分子の実態を見なければならぬ。

七名が等しく動労千葉の闘いの破壊分子であり、全国の良心的・戦闘的組合員の動労大改革を妨害し、革マル反動分子の動労私有化に暴力支配を容認する存在であることは共通している。しかし、決定的な違いがあることについても、われわれは知らなければならぬ。

それは、津田沼支部の島田、斉藤、とりわけ島田が明確に動労千葉に対する革マル潜入スパイ分子であるということである。

「政研・革マルのやり方はおかしい。動労に残って労運研でやる」という銚子・山田や佐倉・石橋、鈴木、「私怨である」と言い切る新小岩・格和、木皿等「軽い気持ち」で「動労千葉には迷惑をかけた」と「わけもわからず革マル反動分子に利用されている」部分と明確に違う質を津田沼・島田が持っていることは今や明白である。

当初、「大会には行っていない」とシラを切っていた島田は今日、職場での圧倒的な追及に真青

になりながらも、連日五〇名の「防衛隊」にかろうじてすがりつくことによって、必死の居直りを策している。「4・17はバリケードを撤去するための正当な行為」と言い切り、「反合闘争は絶対反対では聞えない」「そのうち『本部』派支部をつくってやるから今に見てろ」「動労『本部』のピラを貼る」などと革マル分子であることを丸出しに、居直り、区当局に対しては「身の危険を感じるから仕事ができない」とありもしない「暴力行為」のデマをとばしてまで官憲の導入すら当局に要請するという卑劣さである。

島田はこの間、革マルであることを隠蔽するために「社会党協会派」を自称し、革マルのためのスパイ活動を行いつつ、津田沼において国労分会の役員選挙に介入するなど動労支部との間の共闘関係をブチ壊す策動をくり返し、その責任を追及されると「迷惑をかけたから国労へ行く」と開き直り、あるいは「本部は革マルで千葉は中核だから国労へ行こう」と「仲間作り」を画策するなど、動労千葉、とりわけ津田沼支部の団結を破壊するための策動をくり返し、その都度津田沼支部の組合員の闘いによって粉砕され続けてきた「札つき」の男なのである。

「本部」反動分子の最後のあがきを粉砕しよう!

以上見てきたように、七名の裏切りの持つ犯罪的意味は明確である。

「革マル・島田」の出現は暴力と金で動労千葉を破壊できなかった反動分子の最後のあがきである。

われわれは「わけもわからず利用されている部分」に対しての説得行動と、明確に「革マルの立場から」敵対を開始した島田等に対する糾弾・弾劾の闘いを、今こそ、徹底的に行なわなければならぬ。このことなしに動労千葉の闘いの正義性を守ることも、全国の仲間とともに動労大改革運動を勝利することもできない。「組織破壊攻撃粉砕。反動密通裏切り分子糾弾8・30津田沼集会」へ総集せよ!